



# 情報通信技術（ICT）の 業界動向

業績と信用リスクにフォーカス

## 今回の内容は...

市場別の情報通信技術(ICT)業界の業績 .....	3	
はじめに	グローバル情報通信技術(ICT)・エレクトロニクス - 業績概要 .....	4
中国	政府がデジタル・トランスフォーメーションを強力に推進 .....	6
フランス	ICTの小規模小売店は今後数か月、さらに問題に直面 .....	7
ドイツ	国内販売の成長は持続、下振れリスクも .....	8
インド	デジタル・トランスフォーメーションが主要な成長ドライバー .....	9
イタリア	企業・公共セクターがICT販売の成長は維持 .....	10
日本	今後数年は堅調な成長を予想 .....	11
オランダ	堅調な業績ながら高いインプット価格が問題化する可能性も .....	12
韓国	2022年、ICTビジネスの利益率は再び上昇へ .....	13
スペイン	需要後退と高い仕入れ価格が問題化 .....	14
台湾	旺盛な半導体需要による堅調な成長を継続 .....	15
英国	半導体不足とインフレ圧力が主要課題 .....	16
米国	弱含みながら依然として販売と生産で堅調な成長 .....	17

## 免責事項

本レポートは情報提供のみを目的とするものであり、いかなる読者に対しても投資助言、法的助言、または特定の取引、投資、もしくは戦略に関する推奨をするものではありません。読者は提供された情報の利用に関し商用または非商用を問わず、必ず独自の独立した判断に依拠するものとします。アトラディウスは、信頼できる情報源から得た情報を本レポートに掲載するよう最善を尽くしていますが、誤りまたは遺漏、あるいはこの情報の使用に起因して生じる結果に対して一切の責任を負わないものとします。本レポートに含まれるすべての情報は「現状のまま」提供され完全性、正確性、適時性またはその使用に起因して生じる結果について、明示または黙示を問わず、いかなる保証も伴わないものとします。いかなる場合にも、アトラディウス、その関連するパートナーシップもしくは法人、またはそのパートナー、代理人もしくは従業員は、読者またはその他の者に対して、本レポートの情報に依拠した判断もしくは行為、または結果として生じた特別もしくは類似したあらゆる損害について、これらの損失もしくは損害の可能性について言及していた場合でも、一切の責任を負わないものとします。

著作権 Atradius N.V.2022

# 市場別の情報通信技術(ICT)業界の業績

2022年6月

オーストリア		スロバキア		オーストラリア	
ベルギー		スペイン		中国	
チェコ		スウェーデン		香港	
デンマーク		スイス		インド	
フランス		トルコ		インドネシア	
ドイツ		英国		日本	
ハンガリー				ニュージーランド	
アイルランド		ブラジル		シンガポール	
イタリア		カナダ		韓国	
オランダ		メキシコ		台湾	
ポーランド		米国		タイ	
ポルトガル				アラブ首長国連邦	

以下のページでは、各業界の全般的な見通しを次の記号を使って表します。



## Excellent

業界の信用リスクは非常に低い。業界の業績は過去の長期的な傾向と比較して非常に良好である。



## Poor

業界の信用リスクは相対的に高い。業界の業績は過去の長期的な傾向以下である。



## Good

業界の信用リスクは低い。業界の業績は過去の長期的な傾向と比較して好調である。



## Bleak

業界の信用リスクは非常に高い。業界の業績は過去の長期的な傾向と比較して悪化している。



## Fair

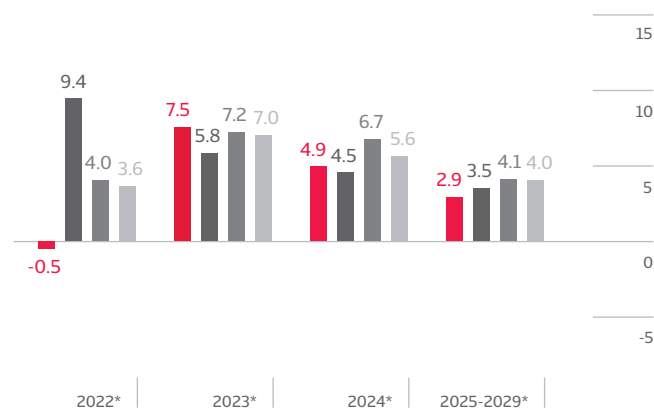
業界の信用リスクは平均的である。業界の業績は過去の長期的な傾向と比較して落ち着いている。

# はじめにグローバルの情報通信技術(ICT)・エレクトロニクス – 業績概要

## グローバル・ハイテク製品生産の伸び率

今後数年間で堅調な成長を予想

前年比変動率%



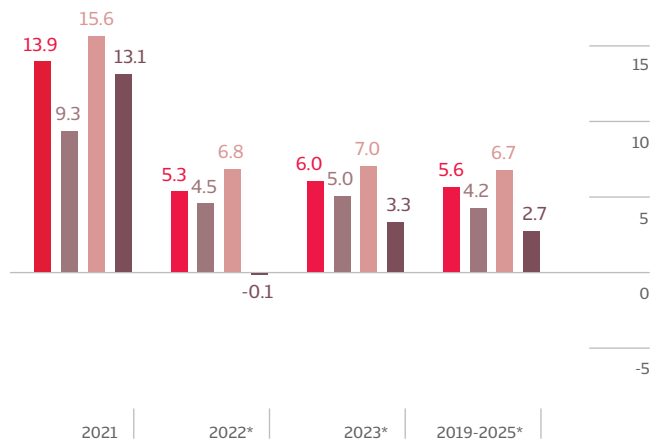
\*予想 出典：Oxford Economics

■ コンピュータ・オフィス機器 ■ 電子部品・半導体  
■ 通信機器 ■ 家電製品

## 地域別の電子機器・コンピュータ生産の伸び率

アジアは依然として半導体、コンピュータ、通信機器のグローバル生産センター

前年比変動率%



\*予想 出典：Oxford Economics

■ 世界 ■ 南北アメリカ ■ アジア・太平洋 ■ 欧州

## グローバルの情報通信技術 (ICT) ・エレクトロニクス

### 短期的見通し - 強さと成長の原動力

- **回復力を示すセクター業績：**情報通信技術 (ICT) の企業は、新型コロナウイルスのパンデミックの期間におおむね生産と売上が増加しました。2021年には、主要サブセクターの生産は二桁の成長率を記録。伸び幅はコンピュータ14.2%、電子部品19.6%、通信10.4%でした。
- **財務の健全性：**ICT企業の利益率は多くの重要市場で上昇。ほとんどの企業は高い半導体価格を最終顧客に転嫁できています。
- **半導体の入手：**半導体の供給は当面はまだひっ迫したままですが、チップ不足はチップメーカーが供給を増やしているため峠を越したようです。2024年をめどにしたチップ生産の増強に向けた大型投資は始まっています。コンピュータや通信機器、家電製品のチップを使うセクターでの生産の伸びは2023年に再び加速する見込みです。

### 短期的見通し - 下振れリスク

- **インフレと金利の高止まり：**長期化しそうな米国と欧州の高いインフレ率は実質所得をさらに浸食し、家電製品の販売減少につながっています。急激な金利の上昇と投資家心理の悪化は、他の業界でのICT投資にブレーキをかけています。
- **長引く新型コロナウイルスの影響：**パンデミックの次の波と、それに伴うロックダウンによって、企業と個人を問わずICT投資にマイナスの影響を与える可能性があります。中国政府のゼロコロナ政策によるロックダウンが継続すると、ICTのグローバル・サプライチェーンにとって深刻な影響となるでしょう。
- **ウクライナの戦争：**ウクライナは半導体製造に必要なネオンの世界最大の生産国です (製鉄からの副産物)。シリコンは依然としてチップの主要部材であり、ネオンガスはシリコン・エッチングに広く活用されています。長引く戦争によってチップメーカーがほかの国から主要原材料を調達できなければ、ネオンガス不足が発生します。このことは、半導体の生産と供給に影響を与えることでしょう。

## グローバルの情報通信技術（ICT）・エレクトロニクス

### 短期的見通し - 強さと成長の原動力

- **ハイテクの拡大：**情報通信技術(ICT)は、イノベティブで技術主導の業界です。とりわけ、半導体セグメントはとて付加価値が高いこともあり、メーカーに高い利益率をもたらします。半導体生産の拡大は、米国、欧州の双方の戦略的目標になっています。米国議会は520億ドル規模の「CHIPS法」を可決し、国内主導で最先端の半導体の生産拡大を目指しています。2022年2月には、欧州委員会はチップ関連のR&D、インフラ、生産に向け、2030年までに総額450億ユーロを投資すると発表しました。
- **将来の堅調な成長率：**今後数年間は、情報通信技術（ICT）/エレクトロニクスの業績は良好の見通しです。この業種は、製造業のなかでも成長率が高い部類に入ります。これは、デジタル化の加速、産業の自動化、電気自動車のような新しい成長セグメントの半導体需要増が背景にあります。

### 中期的・長期的見通し：制約と下振れリスク

- **市場の飽和：**先進国の中には、特定のICT製品（パソコン、タブレット、スマートフォン）市場が飽和状態に近づいていることもあり、これが成長の見通しに影を落としています。
- **米中間の緊張：**貿易問題はテクノロジーにも波及しており、トランプ、バイデンの両政権は、中国が米国の半導体の生産技術と機器を取得するのを防止しようと、規制をかけました。一方、両サイドともハイテクを主導することは、戦略的資産だと認識しています。中国と米国の関係のさらなる悪化は、グローバルのICT/エレクトロニクスのサプライチェーンに悪影響を与え、技術（5Gの普及など）の格差と生産性の低下を潜在的に生む恐れがあります。
- **台湾問題：**グローバルにおける台湾の半導体生産の重要性が増すなか、台湾海峡の今日の緊張状態がエスカレートすることは、チップを消費するICTセグメントなどの世界各業界へのチップの供給に対して深刻な影響を及ぼすことが考えられます。



# 中国

## 政府がデジタル・トランスフォーメーションを強力に推進



中国のICT生産は、2021年に15%の伸びを示した後、2022年と2023年は鈍化するものの、依然として堅調だと予想されます。電子部品とボードの生産は重要な成長の原動力であり、チップメーカーは供給不足を克服するために生産を増強し始めています。しかし、当社はチップ供給のボトルネックは2023まで続くと考えています。チップ供給の問題は、とりわけPC、ラップトップ、スマートフォン、家電製品のセグメントなどのICTの生産と販売に悪影響を与えるでしょう。別の問題としては、深圳や上海などの複数の都市や地域でロックダウンがあったことです。このロックダウンは部分的に解除されましたが、パンデミックの次の波が来てから新たに制限が実施された場合は、現地並びに国内外のサプライチェーンに下振れリスクがあります。

今後数年の期間に、インターネットの普及と高速インターネット化が、ITインフラとサービス関連の需要を下支えすると見られます。可処分所得の増加は、消費者関連のICT製品の国内需要を押し上げます。

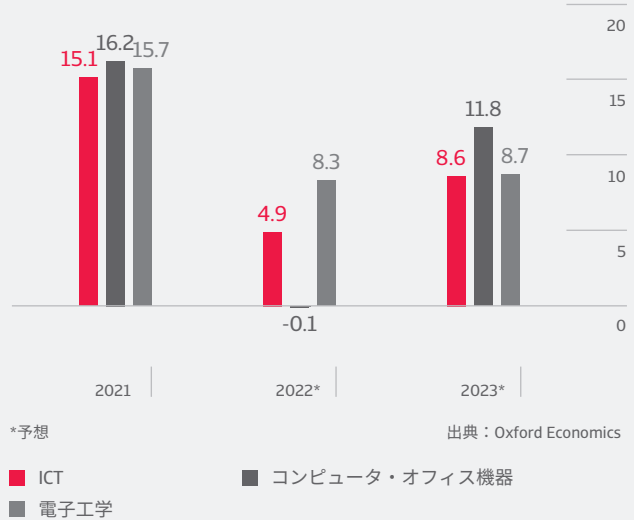
米国による中国へのハイテク製品（特に半導体・チップの生産機器）の禁止または制約を目的とした規制は、ICT投資に弾みをつけることでしょう。デジタル・トランスフォーメーションは第14次五ヵ年計画（2021-2025）の経済発展の中核目標です。中長期的目標は、中国の半導体や人工知能などの先端技術のグローバル競争力を伸ばすことにあります。2012年の1月には、国務院はデジタル経済の将来の青写真を公開しました。青写真は、2025年までにGDPに対する中核デジタル産業の貢献度を10%まで引き上げることを目指しています。政府は2025年までに70%の半導体を国内生産する目標を打ち出しています。

中国のICT事業の利益率は、今後12か月以内に安定して推移すると予想されます。なぜなら、ほとんどの場合、生産者と小売業者の両方がチップの仕入れ価格上昇分を最終消費者に転嫁することができるからです。また、多くの企業が他のコストを削減しています。中国のICT業界では、支払いタームは平均60日で、不払いのケースは少なくなっています。支払い遅延が発生した場合、主に手続上の問題または製品の品質に関する紛争が原因です。今後12か月以内に、支払い遅延や倒産が大幅に増加することはないと考えられます。

IT製品と通信のサブセクターは主に国有企業によって構成されていますが、当社の引受姿勢としては、双方に前向きです。しかし、現在、現地のチップメーカーは研究開発に多額の投資をして、財務上の負担に直面していることがあります。そのため当社は電子部品メーカーに対しては制限をしています。ハイエンド・チップのほとんどは外国企業が製造しており、それらは当面、他のものには置き換えられないでしょう。当社はICTの卸売業者や小売業者に対しては中立的です。これらは主に非公開企業であり、利益率が薄いため外部資金調達コストの上昇の影響を受けやすいでしょう。

### 中国 ICT・電子機器生産の伸び率

前年比変動率 %



### サブセクターの業績予想

<b>コンピュータ・オフィス機器</b> 	<b>電子部品</b> 	<b>通信</b> 
--------------------------	-----------------	---------------

出典：Atradius

### 中国のICT - 信用リスク評価

公正性



事業環境	財務状況	デフォルト評価
+ 需要状況（販売）	セクターの負債総額 <span>平均</span>	過去12か月の不払い
利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <span>平均</span>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <span>平均</span>	過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

出典：Atradius

# フランス

## ICTの小規模小売店は今後数か月、さらに問題に直面



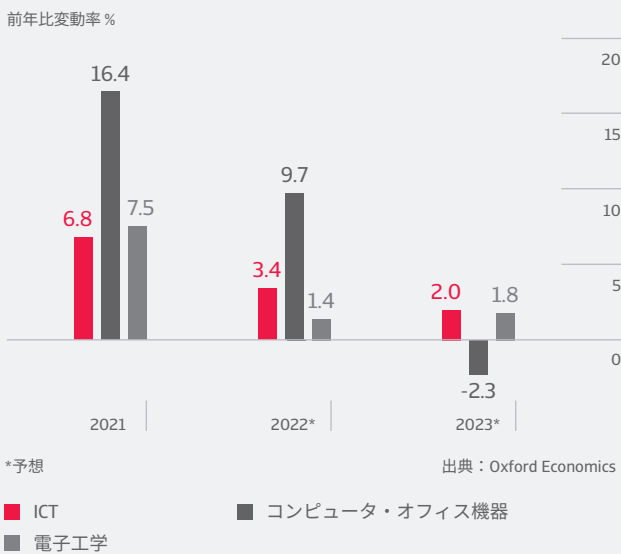
フランスのICT市場は、リモートワークとデジタル化のニーズが急増し、2021年に堅調な成長を記録しました。ただし、その需要はパンデミックの間にピークをつけましたが、その後減速しています。コンピュータとスマートフォンの市場は成熟度が高く、今年は4%の市場規模の減少が見込まれています。継続的なサプライチェーンの問題（輸送のボトルネック、半導体の不足）は、フランスのICT企業に大きな影響を与え、仕入れ価格の大幅な上昇と製品の提供の減少につながります。中国の最近のロックダウンは、この影響をさらに悪化させています。

バリューチェーンのハイエンド（特に電子部品セグメント）を扱う大規模なメーカーは、高い価格を転嫁できますが、ローエンドの企業にとってはむずかしいことです。一方、コンピュータ機器メーカーは、チップ不足やミドルレベル、ローエンドの製品の在庫処分が足枷となり、高付加価値製品の生産が困難となっています。こうしたことは、販売代理業者の製品提供と利益率に悪影響を与えています。そのため、ICT卸売業者や小売業者の中でも、特に中小企業の利益率は縮小している一方で、大規模な生産者の利益率は安定し続けると予想されます。

フランス経済省によると、ICT業界での支払いは平均68日かかりますが、全業界では49日でした。たとえば、公共機関や大規模な通信事業では、手続き上の理由から、さらに長期の支払いター

ムを求めています。2021年には、ICTの倒産件数は、2020年に見られた歴史的な低水準から緩やかに増加し始めました。2022年第1四半期には2019年第1四半期に記録した「通常」レベルに戻り、今後12か月でさらに増加すると予想されています。主に影響を受けるのは、ICTサービスプロバイダーとICTの卸売業者・小売業者ですこれらのセグメントの中小企業は、助成金の期限が終了したため、負債が多くなった一方で、サプライチェーンの問題が続いていることで、運転資金をより必要とするようになりました。同時に、需要が減速し、半導体の不足が製品の提供を阻害し、仕入れコストの上昇をエンドユーザーに転嫁しにくくなっているため、利益率は縮小しています。当社は、ICT卸売/小売およびコンピュータメーカー/サービスに対して中立または慎重な姿勢ですが、電子部品と通信サブセクターに対しては前向きな姿勢です。

### フランス ICT・電子機器生産の伸び率



### サブセクターの業績予想



### フランスのICT - 信用リスク評価

公正性

事業環境	財務状況	デフォルト評価
需要状況（販売）	セクターの負債総額 <b>高</b>	+ 過去12か月の不払い
- 利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <b>平均</b>	- 今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <b>高</b>	- 過去12か月の倒産件数
		- 今後12か月の倒産件数

出典：Atradius

# ドイツ

## 国内販売の成長は持続、下振れリスクも



Bitkom（ドイツ情報技術・通信・ニューメディア産業連合会）によると、2021年の国内のITと通信に対する支出は4.2%増加しました。2022年には、売上高は4%増の1760億ユーロに達すると予測されています。2020年と2021年と同様に、ITソフトウェアとハードウェアの販売は極めて堅調に推移するでしょう。企業や公共部門は、パンデミックの間にさまざまIT機器を購入しました。そして、今は新しい機器に戦略的に投資しています。また、通信機器や家電製品の販売は、パンデミックが最も深刻だったときに急増した後、通常の水準へと鈍化しました。

2022年3月にウクライナの戦争の経済的影響により著しく悪化したICT景況感は、4月に注文が数多く入ったことによって回復に転じました。しかし、ドイツのICTとエレクトロニクスでは、半導体の不足による影響を受け続け、コンピュータ、オフィス機器、電子工学セクターの生産量は減少しています。2021年以降、供給側のボトルネックや労働力不足のため、電子部品の生産は減速しています。

半導体のボトルネックの問題は、少なくとも2022年末まで続く見通しです。チップ、商品、輸送のコスト上昇に伴い生産コストが上昇する一方、ICT企業は継続する需要の堅調さを受けて、これらの価格上昇を最終顧客に転嫁することができています。そのため、ほとんどの企業の利益率は引き続き改善されています。

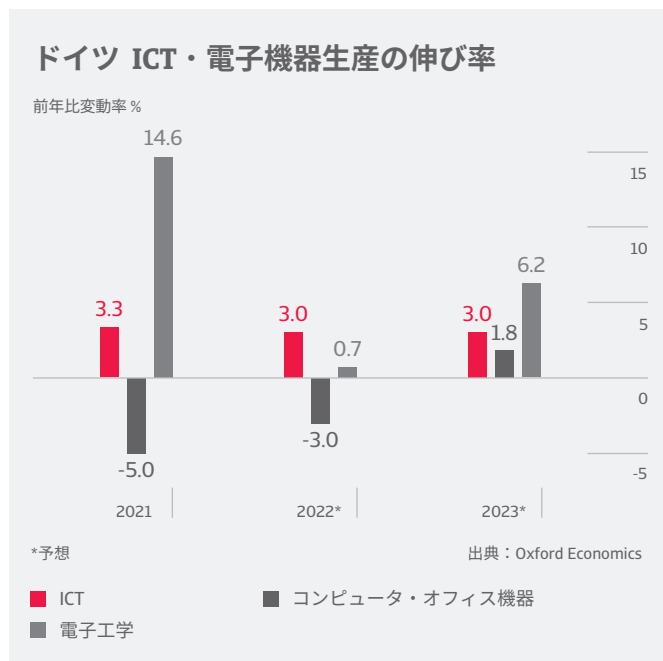
支払いは平均で30日～60日かかり、過去2年間の業界での支払い行動は良好でした。過去12か月間の支払い遅延と倒産の件数は少なくなっています。ただし、新型コロナ関連の財政支援策の期限が切れると、企業の倒産は今後12か月で増加すると予想されます。これは、2021年の人為的に低いレベルから2019年の通常レベルに回復すると見られます。

すべての主要サブセクターで、当社は基本的な姿勢として、全般的に前向きです。しかし、ウクライナの戦争の経済的影響によって消費者と企業の景況感が著しく悪化していることは、依然として国内売上高の成長に対する下振れリスクとなっています。同時に、半導体の不足の問題は2022年以降も生産に影響を与える可能性があります。

### サブセクターの業績予想

電子部品	ICT卸売・小売	通信

出典：Atradius



### ドイツのICT - 信用リスク評価

公正性

事業環境	財務状況	デフォルト評価
+ 需要状況（販売）	セクターの負債総額 <span>平均</span>	過去12か月の不払い
+ 利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <span>平均</span>	- 今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <span>高</span>	過去12か月の倒産件数
		- 今後12か月の倒産件数

大幅増加   
 増加   
 安定   
 減少   
 大幅な減少

出典：Atradius



# インド

## デジタル・トランスフォーメーションが重要な成長ドライバー



インドのICTセクターは過去2年間で非常に好調で、今後数年間も需要はさらに拡大すると予想されます。B2Bセグメントでは、インドの多くの企業が自社システムのアップグレードとデジタル・トランスフォーメーションに注力しています。政府のICT投資にも同じ焦点が当てられています。コンピュータとオフィス機器のメーカー・サービス会社は、この需要の急増の恩恵を受けています。B2Cセグメントでは、リモートワークとeラーニングの急増により、パンデミックによるロックダウン中の需要は旺盛でした。ただし、こうした状況が正常に戻り、インフレ圧力が家計の購買力を制限すると、需要は減少する可能性があります。ICT製品の小売価格も上昇しています。これは、スマートホームデバイス、ウェアラブル端末、新しいテレビセットの目先の需要に影響します。とはいえ、インドの家電市場は、人口動態変化に支えられ、2022年～2026年の期間に年率5.8%成長すると予測されています。

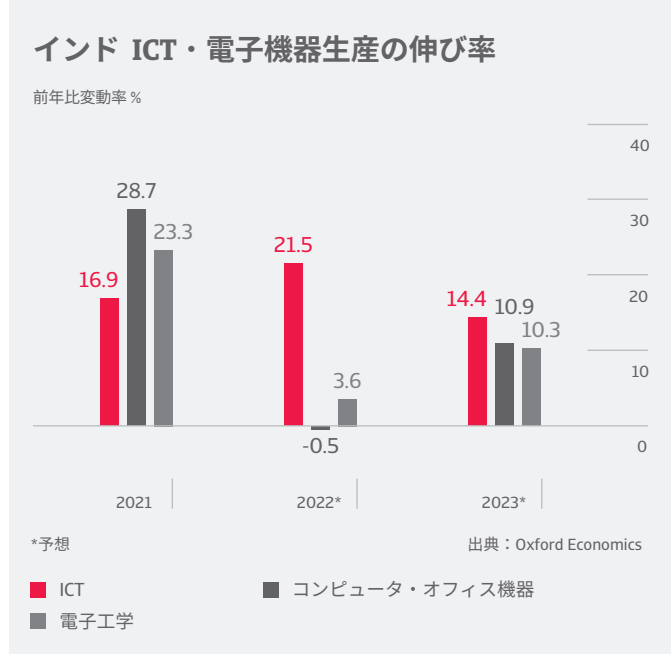
通信セグメントは、5Gインフラストラクチャへの投資増加と携帯電話の普及率上昇のメリットを享受しています。しかし、製品を差別化できないため、市場競争は激しくなる一方で、継続するチップ不足がプロジェクトの完了を阻害しています。

オフィスや教育機関が再開する中で、ICTの卸売業者や小売業者の見通しは、パンデミック期間ほど良好ではありません。このセグメントは、主に財務リスクの評価が低い中小企業（低い流動性、低い利益率、過当競争）で構成されています。

ICTの生産と販売は、2023年まで続くと予想される半導体の不足によって影響を受け続けると見られています。現在、企業は需要を見越して、材料

を大量に事前注文して在庫を積み上げています。これが運転資金需要の増加を招いています。しかし、コストの増加が最終消費者に転嫁されることになるため、今後数か月間に利益率は安定を維持すると予想されます。

支払いにかかる時間は平均60～90日です。ICT業界での支払い行動は、過去2年間は良好で支払い遅延は低いレベルでした。主な理由は、長引く原料とチップの不足の影響を背景に売り手が前払いを要求し、厳しい支払いタームを設定しているからです。これを守らず、支払いを遅延した買い手はチップや商品を調達できないリスクにさらされる可能性があります。性質上、常々遅れが生じやすい政府のスマートシティプロジェクトは例外として、今後12か月間、支払い遅延が増加することはないでしょう。2022年後半と2023年前半では、企業倒産の件数は引き続き少なくなると考えられ、当社は基本的にすべてのサブセクターに前向きな姿勢です。しかし、多くの中小企業は負債額が多く、自己資本が少ないことから、当社は、個々の買い手の財務力を慎重に精査しています。



### インドのICT - 信用リスク評価

良好

事業環境	財務状況	デフォルト評価
+ 需要状況（販売）	セクターの負債総額 <b>高</b>	過去12か月の不払い
利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <b>高</b>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <b>平均</b>	過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

大幅増加   
 増加   
 安定   
 減少   
 大幅な減少

出典：Atradius

# イタリア

## 企業・公共セクターがICT販売の成長は維持



イタリアでのICT販売は、リモートワークとeラーニングの拡大により、企業や従業員のデジタル製品やサービスへの支出が増加したことから、2020年後半と2021年に大幅な成長を記録しました。最近、特に消費支出が多かったことと、高いインフレ率で可処分所得の減少したため、消費者のICT支出は今後数か月は減速すると予想されています。しかし、国のデジタル化促進を目的とした財政支援（復興と回復力プラン）によって、企業や公共機関の支出は引き続き増加していく見込みです。チップの供給不足は、業界に負担をかけ続けていますが、マイナスの影響は徐々に緩和されていくと考えられます。ICTの卸売業者は、サプライチェーンの長引くボトルネックのため在庫不足に直面しています。

2021年の増加を受けて、イタリアのICT企業の利益率は今年も安定していると予想されます。これは、ほとんどの企業が半導体、エネルギー、輸送のコスト上昇を最終消費者に転嫁することができるからです。ただし、ICTの卸売・小売業者の利益率は、競争の激化により圧迫されています。

ICT企業は、一般的に中大規模の運転資本を必要としており、銀行はその融資に前向きな姿勢を示しています。ICT業界での支払いは、個々の企業の規模と市場競争力に応じて、平均60～120日

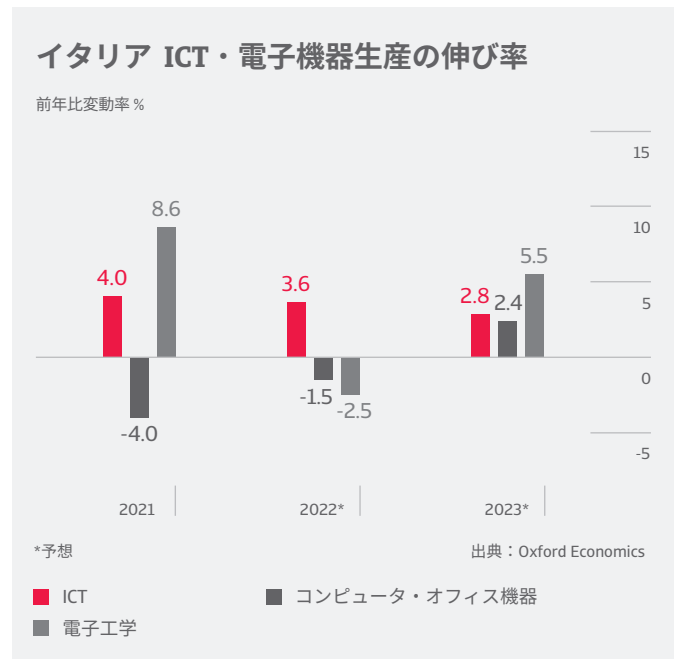
かかります。この2年間のこのセクターの支払い行動は良好でした。過去12か月間の支払い遅延と倒産の件数は少なくなっています。企業や公共機関によるICTへの継続的な投資に下支えされ、これらの件数は今後12か月間は安定すると予想されています。

当社は基本的にコンピュータと通信機器、家電製品のメーカーに対しては一般的に前向きな姿勢です。半導体不足の影響を最も受けている電子部品メーカーに対しては、より中立的アプローチを採用しています。ICTの小売セクターでは、競争が激化しているため他のサブセクターよりも利益率への圧迫が大きくなっています。ICT販売代理業者は、製品の品揃えを多様化して収益性を向上させようとしています。

### サブセクターの業績予想

コンピュータ・オフィス機器	電子部品	通信

出典：Atradius



### イタリアのICT - 信用リスク評価

良好

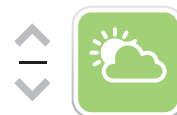
事業環境	財務状況	デフォルト評価
+ 需要状況（販売）	セクターの負債総額 <span>平均</span>	+ 過去12か月の不払い
利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <span>平均</span>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <span>高</span>	+ 過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

大幅増加
 増加
 安定
 減少
 大幅な減少

出典：Atradius

# 日本

## 今後数年は堅調な成長を予想



日本は、世界のエレクトロニクスとコンピュータの生産の7%以上を占めています。2022年のICTセクター全体の業績は引き続き良好です。ハードウェア製品や家電製品の売上の伸びは幾分鈍化していますが、ITサービスに対する旺盛な需要と、電子部品セクターの堅調な成長によって、それを補完しています。

電子部品の生産は、チップ需要の高まり、受注残、価格の上昇に牽引されています。とはいえ、半導体の不足はコンピュータや通信機器の生産にも影響を及ぼし続けており、それぞれ前年比6.4%、10.4%の減少が見込まれています。これらサブセクターの成長は2023年に再び加速すると予想され、今後数年間に半導体生産能力の拡大に向けて多額の投資が行われます。しかし、長期化するウクライナの戦争や半導体製造に必要な原材料であるパラジウムやネオンガスの不足により、依然として下振れのリスクがあります。現在のところ、チップメーカーは十分な在庫を確保していますが、戦争が長引くと2022年末にかけてボトルネックが発生する可能性があります。

日本のICT生産者、卸売業者、小売業者の利益率は2022年に安定して推移すると予想されます。これは、半導体コストの上

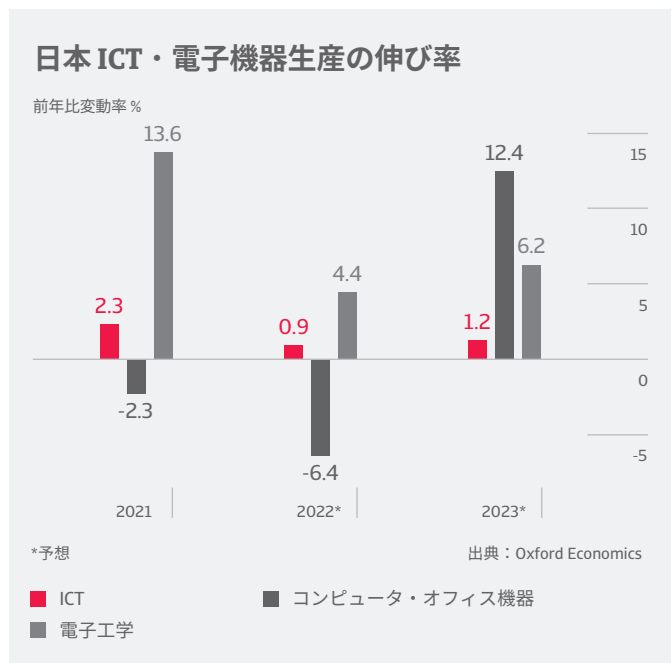
昇、エネルギーや輸送費の増加分を最終消費者に転嫁できるからです。

支払いは、個々の企業の規模と市場競争力によって平均で60～120日かかります。この2年間のICT業界での支払い行動は良好でした。2021年と2022年前半には、支払い遅延や倒産の件数は非常に少なく、今後12か月間はこのような信用リスクの低い環境が続くと予想されます。当社は基本的にすべてのICTサブセクターに前向きな姿勢です。日本のICTセクターは、今後も2025年まで年間約3.5%成長し、コンピュータ、スマートフォン、ゲーム、家電製品の主要プロバイダーであり続けると予想されます。

### サブセクターの業績予想

コンピュータ・オフィス機器	電子部品	通信

出典：Atradius



### 日本のICT - 信用リスク評価

良好

事業環境	財務状況	デフォルト評価
+ 需要状況（販売）	セクターの負債総額 <span>平均</span>	過去12か月の不払い
利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <span>平均</span>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <span>高</span>	過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

大幅増加   
 増加   
 安定   
 減少   
 大幅な減少

出典：Atradius

# オランダ

## 堅調な業績ながら高い仕入れ価格が問題化する可能性も

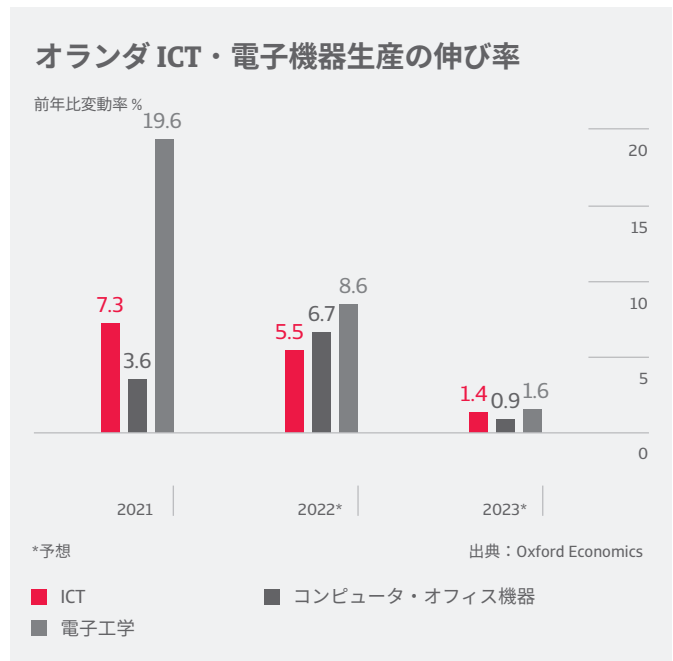


オランダでは、ICT市場の業績はここ数年、非常に良好でした。パンデミックのピーク時に比べて成長がいくぶん鈍化しているものの、全体的な状況は引き続き良好と予想されます。ITと情報サービスは、デジタル化の進展によるメリットを享受できる見込みです。また、通信機器の成長は5Gネットワークのサービス開始によって下支えされます。

2022年後半ではチップの供給不足が若干改善される可能性があります。2023年には受注残が引き続き問題となります。チップ不足は電子部品の生産を促進するものですが、チップを使う主要セグメントの伸びを犠牲にします。ICTの生産は今年5.5%増加しますが、来年は1.4%に低下すると予想されています。

現在、チップを使うセクター（コンピュータ、通信機器、家電など）のほとんどの企業は、半導体コストを最終顧客に転嫁することができています。ただし、製品のリードタイムを予測しにくいいため、ICT企業は今後数か月以内に製品価格の管理が困難になる可能性があります。インフレの高止まりによる消費者心理の悪化は、家電・コンピュータの販売の下振れリスクとなっています。両セグメントのメーカーが今後数か月以内に高くなった仕入れ価格分を転化できるかどうか、また利益率がさらに圧迫されるかどうかについては、まだわからない状況です。

このセクターでの継続的な統合や買収によって（特にプライベート・エクイティが関与している場合）、影響を受けた情報通信企業の負債額が増えることになりました。ICT企業の資金調達の大部分は、債権者と前払金に依存したものです。ICT企業に対する銀行の融資方針は前向きであるため、全体的に他の産業と比べて資金調達条件は好ましいものとなっています。オランダのICTセクターでの支払いは平均30日かかり、この2年間の業界の支払い行動は良好でした。2021年と2022年上半期のICTの支払い遅延と倒産の件数は少なく、今後12か月間は悪化しないと予想されています。当社は基本的に、安定した業績と信用リスクの状況を踏まえ、すべてのICTサブセクターに前向きな姿勢です。とりわけ、電子部品メーカー、通信事業者、ICT卸売業者、小売業に前向きです。



### オランダのICT - 信用リスク評価

良好

事業環境	財務状況	デフォルト評価
需要状況（販売）	セクターの負債総額 <b>高</b>	+ 過去12か月の不払い
利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <b>平均</b>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <b>高</b>	+ 過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

大幅増加   
 増加   
 安定   
 減少   
 大幅な減少

出典：Atradius

# 韓国

## 2022年、ICTビジネスの利益率は再び上昇へ



韓国は世界のエレクトロニクスとコンピュータの生産の9%以上を占めています。製造では29%のシェアを占めているため、同国の経済はこの産業に大きく依存しています。ロックダウンに伴う半導体の不足により、2021年、ICTの生産に遅れが発生しました。サプライチェーンの問題は2022年初頭から徐々に緩和されていますが、一部のチップ不足の問題は2023年まで続く予想されます。中期的には、ウクライナの戦争は半導体製造に必要なネオンガスなどの原料の供給に大きな影響を及ぼす可能性があります。しかし、韓国の大手チップメーカーは、市場で大きな購買力を持ち、在庫確保も容易です。また、韓国はネオンガスを国内で精製する計画を発表しています。

コンピュータや関連機器に対する消費者の需要は、市場の一定レベルの飽和により今後12か月は若干減少する見込みです。しかし、企業の需要は依然として旺盛であり、5Gネットワーク、データサーバ、クラウド・コンピューティング、新しい折りたたみ式スマホの発売は、生産と販売の増加を下支えするでしょう。

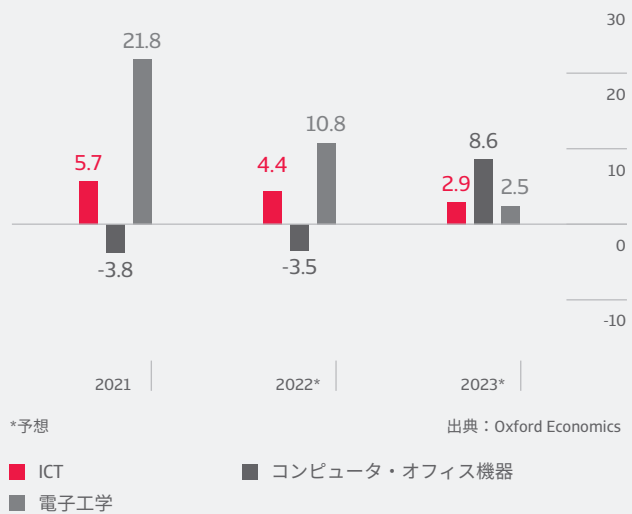
チップ不足状況の改善、ICTビジネスソリューションへの旺盛な需要、消費者向け電子プレミアムデバイスの販売価格の上昇によ

り、韓国のICTメーカーの利益率は来年も上昇すると予想されます。ICT卸売業者と小売業者は、メーカーが転化してきた仕入れコストに対処する必要がありますが、継続的な売上増によって、それを補うことができるはずで

支払いは平均で60日~90日かかり、過去2年間の業界での支払い行動は良好でした。2021年と2022年上半の支払い遅延と倒産の件数は少なくなっています。継続的に堅調である需要、すべてのサブセクターの企業の負債の少なさ、銀行による前向きな融資政策などを踏まえ、ICTの信用リスクの状況は良好であると予想されます。したがって、当社は基本的にすべてのICTサブセクターに対して前向きな姿勢です。2019-2025年の期間、韓国の電子・ICTセクターの年平均成長率は7.7%になると予想されます。

### 韓国 ICT・電子機器生産の伸び率

前年比変動率 %



### サブセクターの業績予想

コンピュータ・ オフィス機器 	電子部品 	通信 
-----------------------	----------	--------

出典：Atradius

### 韓国のICT - 信用リスク評価

良好

事業環境	財務状況	デフォルト評価
+ 需要状況 (販売)	セクターの負債総額 <span>平均</span>	過去12か月の不払い
+ 利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <span>平均</span>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <span>高</span>	過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

出典：Atradius



# スペイン

## 需要後退と高い仕入れ価格が問題化



2022年と2023年、スペインのICT需要は堅調に推移すると予想されます。しかし、企業の購買力が低いため成長の鈍化が進んでいます。一方、食料品やエネルギー価格の高騰は家計の購買力に悪影響を及ぼしています。同時に、ICTのメーカーと小売業者は、商品価格の高騰、サプライチェーンの問題（半導体の不足）、地政学的な下振れリスク（ウクライナの戦争）の影響を受けています。

スペインのIT市場は競争が激しく、卸売業者と小売業者で構成され、そのほとんどが薄利で経営されています。スペインのIT企業は主にサプライヤーから資金調達し、銀行の運転資金融資枠を通じて二次的に融資を受けています。セクター全体の債務総額は少なく、多くの企業はパンデミック中の財政支援から恩恵を受けています。通信セクターでは、他のサブセクターと比較して企業のレバレッジ率は高いですが、需要が堅調なため十分な利益率も記録されています。

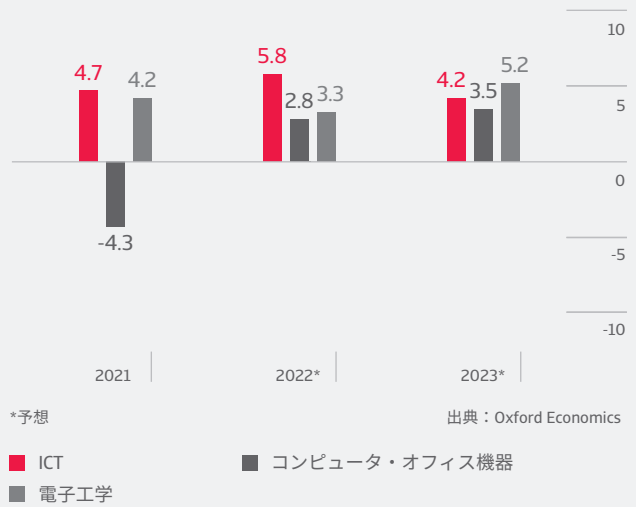
主要メーカーは現地にはありません。電子部品は主にアジアから輸入され、スペインの輸入業者は現在、高い輸送コストに直面しています。スペインの家電製品セグメントでは、大規模で財務

が健全な国際企業が活発に展開しています。卸売業者や小売業者は、高い仕入れコストを最終顧客に転嫁できるため、利益率を維持できています。

スペインのICT業界での支払いは平均で60日かかります。過去2年間の支払い行動は良好で、2021年と2022年前半では支払い遅延と支払い不履行の件数は少なくなっています。2022年の第1四半期には、スペインの企業倒産に占めるICTの割合はわずか0.2%でした。ほとんどの企業では、継続的な収益、安定した利益率、負債の少なさのため、今後12か月間にはICT企業の倒産率が大幅に増加するとは予想されません。これは、安定した企業業績と信用リスクの状況に基づいています。

### スペイン ICT・電子機器生産の伸び率

前年比変動率 %



### サブセクターの業績予想

コンピュータ・オフィス機器	ICT卸売・小売	通信

出典：Atradius

### スペインのICT - 信用リスク評価

公正性

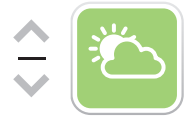
事業環境	財務状況	デフォルト評価
需要状況（販売）	セクターの負債総額 <b>低</b>	過去12か月の不払い
利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <b>低</b>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <b>平均</b>	過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

大幅増加   
 増加   
 安定   
 減少   
 大幅な減少

出典：Atradius

# 台湾

## 旺盛な半導体需要による堅調な成長を継続



台湾は、世界のエレクトロニクスとコンピュータの生産の8%以上を占めています。このセクターのGDP構成比は17%、製造業の50%に相当します。この国は、世界最大の半導体製造拠点の1つであり、最先端チップの製造をリードしています。

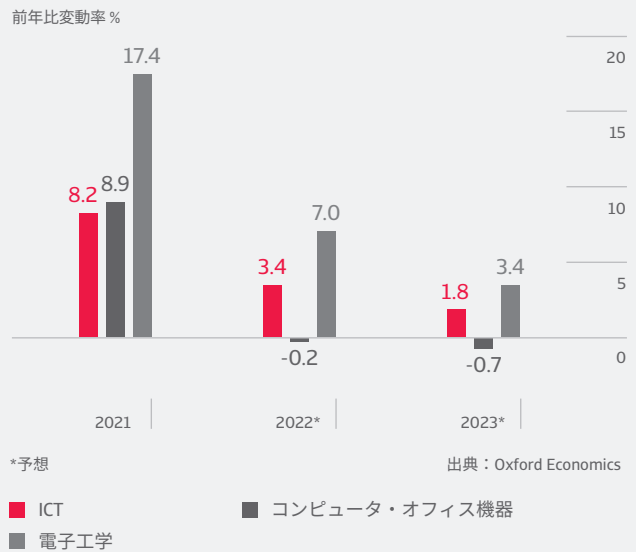
台湾は、2020年以降、チップやその他のICT製品の需要が急増したことによる恩恵を広く受けています。電子工学（チップ製造を含む）は2021年に17.4%増加し、今年はさらに7%の成長を見込んでいます。高い成長率が見られた2020年と2021年以降、市場が飽和状態にあるため、コンピュータや関連機器の生産の伸び率は横ばいになるでしょう。ただし、企業のデジタル化が続くため、関連項目の需要は多くなります。家電セクターでは、デジタル・エンターテインメントやゲーム機器に対する需要が継続的に続くため、安定した業績が予想されます。

半導体の不足は、これまでほとんどのICT企業の売上高にいくらか影響を及ぼしていますが、2022年後半にはボトルネックが発生すると予想されます。台湾のICTメーカーは、エネルギー、原材料、輸送コストの上昇分を最終顧客に価格転嫁することに成功したため、2021年の粗利益率・営業利益率の上昇につながり

ました。世界的なICT需要が2022年から2023年にかけてピークを迎えるため、今後12か月で利益率は横ばいになると予想されます。

台湾のICT業界の支払いは平均90日かかり、過去2年間の支払い行動は良好でした。2021年と2022年上半の支払い遅延と倒産の件数は少なくなっています。ICT製品（特に半導体）の世界的な需要が堅調であり続けていること、ほとんどの企業の負債が少ないこと、銀行が融資に前向きであることなどから、ICTの信用リスク状況は依然として良好であると見られます。そのため、当社は基本的にすべてのサブセクターに前向きな姿勢です。2019-2025年の期間、台湾のICT・エレクトロニクス・セクターの年平均成長率は6.5%になると予想されています。

### 台湾 ICT・電子機器生産の伸び率



### サブセクターの業績予想

<p>コンピュータ・オフィス機器</p>	<p>電子部品</p>	<p>通信</p>
----------------------	-------------	-----------

出典：Atradius

### 台湾のICT - 信用リスク評価

良好

事業環境	財務状況	デフォルト評価
+ 需要状況（販売）	セクターの負債総額 <span>平均</span>	過去12か月の不払い
利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <span>平均</span>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <span>高</span>	過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

出典：Atradius

# 英国

## 半導体不足とインフレ圧力が主要課題



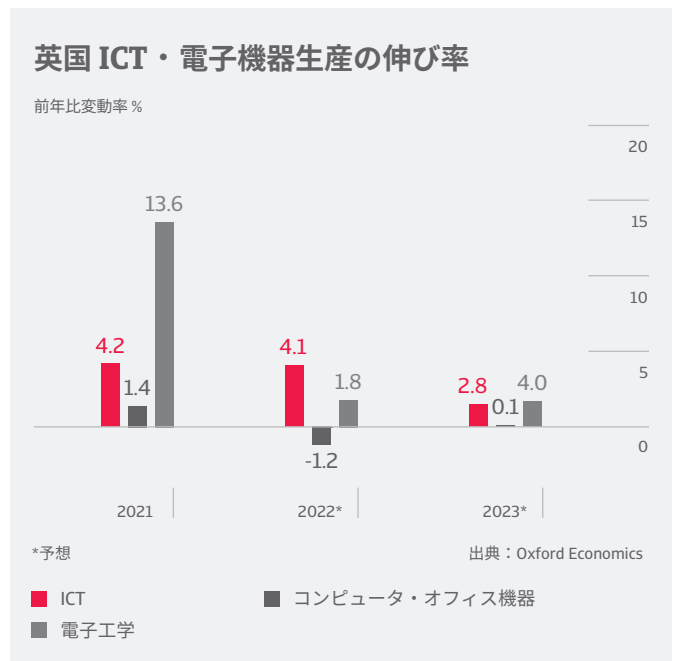
英国でのICT販売は、2020年と2021年に大きく成長しました。主に、リモートワークとeラーニングの急増が要因でした。企業はITインフラストラクチャのアップグレード向けの投資に意欲があるため、2022年には成長が続くと予想されます。ただし、多くの場合、供給は需要に対応できていません。半導体の供給不足は依然として深刻な問題であり、ICTバリューチェーン全体では受注残が引き続き重大な問題であり、生産を阻害しています。一方、スマートフォン・メーカーはチップの在庫を使い切り、ゲーム機は不足しています。ICTメーカーによるチップの重複注文は、受注残対策には役に立っていません。インフレ圧力、輸送コストの増加、市場競争の激化も業績に影響を与えています。

進行中のサプライチェーンの問題が継続的な需要を満たしているため、ほとんどの最終顧客は価格の上昇を受け入れています。そのため、今後数か月間、ICT企業の利益率は安定して推移すると予想されています。ただし、高い食料・エネルギー価格が家計の購買力に影響を与えるため、今後数か月は消費者に対するICT販売は減少する可能性があります。また、ロックダウンの解除後、消費者の支出は社会活動や旅行にシフトしています。

英国のICT業界の支払いは平均60日かかります。過去2年間の支払い行動は良好で、2021年と2022年前半では支払い遅延と支払

い不履行の件数は少なくなっていました。ただし、政府支援策が終了すると、今後数か月間にその件数は増加し、2019年の「通常」レベルに戻ると予想されます。特にマネージド・プリントサービス・セグメントでは、パンデミックの期間に売上が悪化し、その影響を受ける可能性があります。さらに、データセンターは高まるインフレ圧力に直面しています。

当社の基本姿勢としては、マネージド・プリントサービス・セグメントに対してはかなり選択的です（ケースごとのアプローチ）。ICTは、他の多くのサブセクターと比較して信用リスクが低く、回復力があることが証明されているため、他のすべてのサブセクターに対して概ね前向きです。長期的な成長見通しは良好で、柔軟性のある事業環境、世界トップクラスの大学、英国の強力なデジタルサービス経済によって支えられています。



### サブセクターの業績予想

コンピュータ・オフィス機器	通信	プリントサービス

出典：Atradius

### 英国のICT - 信用リスク評価

公正性

事業環境	財務状況	デフォルト評価
需要状況（販売）	セクターの負債総額 <span>平均</span>	過去12か月の不払い
利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <span>平均</span>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <span>高</span>	過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

大幅増加   
 増加   
 安定   
 減少   
 大幅な減少

出典：Atradius

# 米国

## 弱含みながら依然として販売と生産で堅調な成長



2022年と2023年には前年比で一定の成長鈍化が予想されていますが、米国でのICTの生産と販売は極めて堅調に推移すると予想されます。ホームオフィス製品や接続関連のアクセサリ、クラウドサービス、モビリティソリューション、ネットワークセキュリティ製品に対する需要は引き続き堅調です。しかし、継続的な高いインフレ率は家計の一般消費財の支出にマイナスの影響を与える可能性があり、その結果、デバイスの購入が減少する恐れがあります。例を挙げれば、2021年に11.5%の大幅な増加を遂げた後、2022年には家電製品の生産がわずか1.5%の増加にとどまると予想されます。

半導体の不足が続いていることから、コンピュータ、通信機器、家電の生産は減速し、電子部品（チップを含む）の伸び率は今年8.5%の増加になると予想されます。このような増加にもかかわらず、チップの需要は2023年まで供給を上回るでしょう。最近、米国のチップ生産能力の拡充への大規模な投資が発表され、米国議会はいわゆる「CHIPS法」を可決しました。これは、国内生産に対して520億ドルの補助金を出すものです。しかし、生産の増強には数年かかる見通しです。

シリコンはチップの主要部材であることに変わりませんが、シリコンのエッチングにはネオンガスが多く利用されています。ウクライナ最大のネオンガス・メーカー2社が生産を停止するなど、ウクライナの戦争がチップメーカーに悪影響を及ぼす可能性があります。しかし、米国の大手チップメーカーは大量の貯えを確保する傾向にあり、当面の影響は限定的です。

2021年の半導体の平均販売価格は15%上昇しました。さらに、ICT企業はエネルギーと輸送コストの増加に直面しています（特にコンテナ輸送コスト

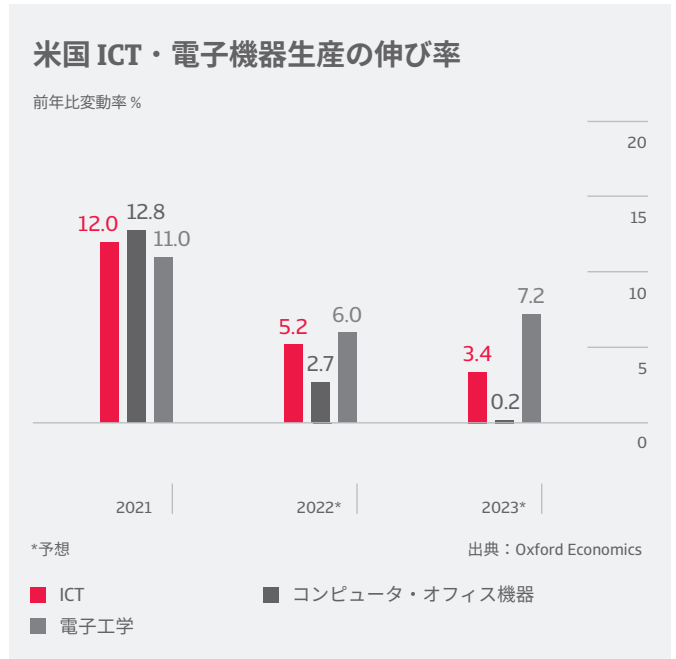
トは大幅に増加）。供給の制約によって生じる遅延を考慮して、一部の企業では、納期通りに買い手に対応するため、空輸による高コストを補う必要があります。米国ICT事業の利益率は、2021年に堅調な需要に牽引されて上昇しました。今後12か月間は、主要製品カテゴリーすべてにおいて需要が緩和されるほか、市場競争の激化もあいまって、利益率は横ばいになると予想されています。プラスの面では、ほとんどのICT企業が、最終顧客にこの価格上昇分の大部分を転嫁できることです。

成長を維持するために、ICT企業の多くは、必要な運転資金の調達を銀行融資に大きく依存しています。銀行が十分な資金を提供する姿勢は、ほとんどのICT企業の流動性属性を改善するのに役立ちます。業界での支払いタームは平均30日から60日で、過去2年間の支払い行動は良好でした。需要の充足と外部融資の受けやすさから、今後12か月間の支払い遅延や倒産の増加はないと予想されます。安定した成長と流動性への十分なアクセスを考慮すると、引受姿勢としては、すべてのサブセクターに対して引き続き前向きなものとします。

### サブセクターの業績予想

コンピュータ・オフィス機器	電子部品	通信

出典：Atradius



### 米国のICT - 信用リスク評価

良好

事業環境	財務状況	デフォルト評価
+ 需要状況（販売）	セクターの負債総額 <input type="text" value="平均"/>	過去12か月の不払い
利益率：今後12か月のトレンド	銀行融資への依存度 <input type="text" value="高"/>	今後12か月の不払い
	銀行の融資姿勢 <input type="text" value="高"/>	過去12か月の倒産件数
		今後12か月の倒産件数

大幅増加   
  増加   
  安定   
  減少   
  大幅な減少

出典：Atradius

このレポートが役に立ったという場合は、当社ウェブサイト [www.atradius.com](http://www.atradius.com) をご覧ください。国別レポート、業界分析、与信管理のガイド、現在のビジネスに関する論文など、世界経済に焦点を置いた資料をたくさん用意しています。

フォローすると、最新のリリース情報を入手できます。

アトラディウスの公式  
アカウントをフォロー



@Atradius



@Atradius



@AtradiusGroup

Atradius N.V.

David Ricardostraat 1 · 1066 JS Amsterdam

Postbus 8982 · 1006 JD Amsterdam

The Netherlands

電話：+31 20 553 9111

[info@atradius.com](mailto:info@atradius.com)

[www.atradius.com](http://www.atradius.com)